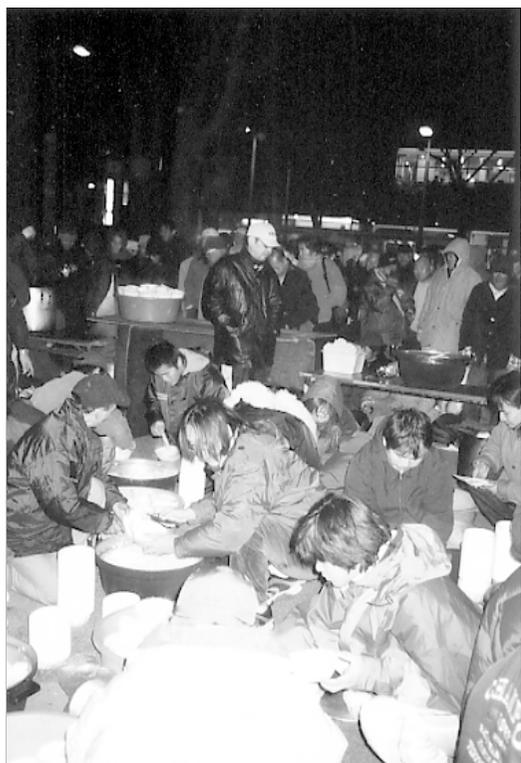


2003年1月29日発行 (隔月刊)



∞∞∞今号のメニュー-∞∞∞

○12.5厚生労働省前行動120名が結集

総力特集

第9回新宿越年闘争報告

- 越年医療班報告 稲葉剛
- 越年炊出し報告 本田庄次
- 越年パトロール報告 上釜一郎

第4回池袋越年闘争報告

- 池袋越年活動報告 遠田

- 池袋&新宿越年越冬支援連帯集会
- NPO新宿活動状況報告
- 越冬後段日常活動邁進中!
- 路上トピックス3連弾

財政報告11-12月速報

定価100円 (カンパ込み)

活動報告

政府、霞が関は俺たちが勝ち取ったホームレス法による自立支援策を早急に実施しろ！



12月5日厚生労働省前、全国120名の仲間が座り込み、大交渉を行う

12月5日、全国（北九州、大阪、静岡、横浜、東京、千葉）の野宿の仲間や支援団体の仲間が一同に会し、120名の結集による厚生労働省前の座り込み要望行動が行われました。代表団による交渉も行われ、遅々として進めぬ国のホームレス対策について厳しく追及を行った所です。

ホームレス支援法による国の支援策は2月から始まる全国実態調査からスタートするとの事ですが、基本方針が策定されるのは6月の見通し。しかも、それまでのつなぎの方針が何もありません。代表団はその点を徹底追及。

そして粘りに粘った交渉によって、厚生労働省は補正予算でシェルター事業の前倒し3億円、そして「ホームレス緊急援護事業」として2億円、計5億円を1月通常国会開会後すみやかに計上する事を約束しました。また、緊急地域雇用創出交付金の上積みも検討中であるとの事です。2時間半にわたる大交渉で、一定国の前向きな姿勢は勝ち取りましたが、まだまだ十分なものではありません。公的就労事業については頑なに実施を渋り続け、肝心の就労支援事業の中味も

自立支援センター以外見えて来ませんし、高齢の仲間に対する「半福祉・半就労」的自立スタイルなど、生活保護適用の柔軟な対応も考えられていません。住宅確保策についてもしかりです。

これらの課題を突破するため、今後も全国の仲間と力を合わせながら国に私たちの要望を継続して突きつけていこうと思います。国がある程度の方向性を出したことにより、東京都や新宿区に対するたたかいもやり易くはなって来ました。自立支援センターを活用した就労支援対策や緊急援護対策について早急に改善を計って行きたいと思います。



全国代表交渉団と厚生労働省等のお役人

要求書

2002年12月5日

北九州ホームレス支援機構/釜ヶ崎支援機構/釜ヶ崎反失業連絡会/ささしま共生会/
野宿のための静岡パトロール/神奈川全県パトロール/新宿ホームレス支援機構/
新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議/市川ガンバの会

- 1 野宿を余儀なくされる人々が全国の都市で増加をつづけている状況に鑑み、基本方針策定の前に早急にこれらの人々の命を守るための緊急の措置を講じられたい。
- 2 上記の措置を始め、自立支援のための予算を獲得されたい。
- 3 就労による自立のための事業として公的機関による雇用創出を行なわれたい。
 - (1) 平成15年度予算は、「国の当面の対応策」を若干拡大し、雇用対策については『ホームレス対策のスキーム』によれば、少しメニューが増え努力のほどがうかがわれるが、直接の就労対策は見あたらない。野宿にいたる原因の最大のものが失業によることは全国調査を待つまでもなく明らかであり、一時的であれ働ける場を提供し、社会からの疎外感を緩和することが、他の施策をより生きたものとして活用できる素地になると考えられる。
 - (2) 基本方針においては、就労機会の提供を明示されたい。平成15年度予算について、就労機会提供に必要な予算確保になお一層、努められたい。
 - (3) 平成14年度補正予算において、ホームレス対策に関連して要求された項目と金額を明らかにされたい。
 - (4) 平成14年度補正予算において、「地域雇用創出基金」が上積みされるとの報道がなされているが、上積み部分の一部をホームレスの直接的な就労機会提供事業にかかわるものとして確保し、その旨明示して地方公共団体へ交付されたい。
 - (5) 平成14年度補正予算において、緊急的に実施されるべき食や日用品の提供事業が地方公共団体で実施できる予算を確保されたい。
- 4 中核都市を始めとする地方都市と大都市における施策の格差解消をめざされたい。
 - (1) 『ホームレス対策のスキーム』によれば、「相談活動推進事業」を推進母体として「総合相談推進協議会」が想定されているようだが、市町村はもちろんとし、実施計画を作成することになっている都道府県においても設置が想定されているのか。
 - (2) 構成団体としてどのような団体が想定されているのか、地方公共団体の独自判断にゆだねるのか。野宿生活者支援団体などの参加を前提としているのか。
 - (3) 野宿生活者概数調査で、一人でも数字があがれば、「総合相談推進協議会」を設置すべきであると考えますが、その旨、基本方針の中に盛り込まれるのか。
 - (4) 「総合相談推進協議会」は相談事業計画の企画立案を行うこととされている。ホームレスに至るおそれのある人からの相談もあると想定するのが現実的であり、そういった相談を受けることも企画立案されるべきであると考えますが、相談事業計画で最低立案すべき項目は国の基本方針の中で示されるのか、それとも「要綱」で示されるのか、あるいは地方自治体の実施計画で定められるのか。
- 5 8月7日およびそれ以降に出された関連の国土交通省の通知は、一部を除き「適正化条項」が盛り込まれていると述べているのみで、法律の目的である「ホームレスに関する問題の解決」のためには不十分であると考えます。国土交通省として基本方針に、路上から脱却できる施策を盛り込んでいただきたい。
- 6 同じく8月7日付けの厚生労働省の通知は、生活保護適用について、野宿を余儀なくされている人々にも他の生活困窮者同様申請の権利があることを認めた従来の通知から前進しておらず、さらに保護施設に収容する方法しか示唆していない。野宿者が失業のために野宿を余儀なくされていることを認識し、居宅保護推進の指針を示していただきたい。
- 7 全国調査について、その内容を公表していただきたい。
 - (1) 全国調査に基づいて作成される国の基本方針の作成手順について、特に、地方公共団体や支援団体等の意見を聴取する機会は考えられているかについて、お知らせいただきたい。



雪が降ろうと、雨が降ろうと、寒さがキツがるうとも、路上の力は仲間の力
第9回目となる新宿越年の取り組み、中央公園でしっかりやり抜きました。

第9回目となる新宿越年闘争は12月29日から1月6日まで新宿中央公園ポケットパークを拠点に連日とりおこなわれました。今年は寒さが厳しく、かつ雪、雨の日もあるなど例年以上の過酷な年越しとなりましたが、連日総勢50名近い仲間が作業に参加、飯炊き、おかず作り、毛布、衣類配給、医療テント、音楽会や映画会の開催、夜、深夜のパトロール等を集中的に実施しました。夜の炊き出しには平均して600-700名近い仲間が訪れ、仕事のない時期に明日への活力を養うあたたかい丼飯を食べ、また用意した400枚の毛布もあっと言う間に仲間に手渡されました。医療テントもボランティアの医師や看護婦スタッフが24時間体制で常駐し、越年期の仲間の命を守る拠点としてフル活躍をしました。越年期間中、医療テントが把握した救急入院は5件、中には発見が遅れたら命の危険があった仲間もいます。また6日、7日に実施した福祉行動では4名の仲間が福祉を通して入院するなど、今年の冬の厳しさを実感させる事態となっています。そして残念な事ながら、4日朝に戸山公園で非定住居の仲間が亡くなっているのが発見されました。周囲の仲間によるとここ2.3日の間に新しく来た仲間て、亡くなる前の晩、お酒を飲んでいるところを目撃されています。丁度雨模様様の冷たい夜でしたので酒の酔いが冷めた後に凍死した可能性があります。

新宿駅周辺もそうですが、仕事が終わるこの時期に、新たに新宿地区に流入してくる仲間は絶えません。そういう流入者、初めて冬を越す仲間に対しての各種情報提供、横のつながりがまだまだ不十分であった事を反省させられる事態でした。

それでもこんな過酷な状況を嘆き続けるのではなく、どうにか年を越し寿を目指そうと多くの仲間は前向きに冬作業をやり抜き長丁場の越年の集中的な取り組みを貫徹し抜きました。

仲間を励まそうと無償で演奏会や公演をして下さったミュージシャン、劇団の皆さん、そして全国からの暖かいカンパ金、カンパ物資の集中、本当にありがとうございました。越年をどうにかこうにか乗り越えた力で冬本番の越冬後段も精一杯あたたかい抜きたいと思います。



特集・新宿&池袋越年闘争報告

医療班活動報告

稲葉剛

9回目となる新宿越年闘争の歴史の中でも、最も寒く、しかも長かった今越年。医療班は例年以上に「仲間のいのちを守る」活動に奮闘しました。その報告を以下に簡単に行ないたいと思います（医療的な側面からの詳細な報告は、新宿ホームレス支援機構発行『季刊 Shelter-less』2003年春号に掲載予定です）。

新宿連絡会医療班は通常、毎月第2日曜日の医療相談会（午前：戸山公園、夜間：中央公園）を中心に活動を行なっています。1996年春から現場での活動を行ない、広報活動にも力を入れてきた結果、現在では多くの医療・福祉関係者（医師、看護師、鍼灸師、医学生、社会福祉士など）の参加を得ることができています。また、ありがたいことに医薬品を寄付して下さる薬局も現れ、そのおかげで継続的な活動が可能になっています。

越年期の集中的な活動は、こうした医療班の活動を支えて下さるネットワークを最大限活用させていただく機会となります。今越年でも中央公園ポケットパークに約12畳の医療テントを設営しましたが、12月29日夜から1月6日朝まで8泊9日となった医療テントの運営には、1日2交代で医療従事者があたり、毎晩必ず医師が宿直する態勢を取ったほか、特に相談が集中する炊き出し前後の時間には人員を手厚くする態勢を取ることができました。参加した医師・看護師の数はそれぞれ十数名にのぼり、中には長野県など遠隔地から駆けつけてきてくれた方もいらっしゃいました。また衣類や物品の整理などは学生ボランティアや生活保護を受けてい

る仲間があたってくれ、テント内は例年以上に快適な環境を保つことができましたと思います。

医療テントに相談に訪れた仲間は連日30名～50名。風邪をひいた仲間が中心でしたが、外傷の処置などで毎日テントを訪れた仲間も数名いました。重症のため一時宿泊した仲間は最大時5名。越年中の救急入院は4名に上りました。

夜間はパトロール班との連携のもと、パトロール中に発見された具合の悪い仲間の手当てを行ないました。また、12月30日と1月5日にそれぞれ数人の医師が参加した医療相談会を炊き出しの後に行なったほか、4日には戸山公園でも健康相談会を行なうことができました。

このように医療班は日頃からのネットワークを活かして例年以上の態勢を取ることができたのですが、4日の相談会の直前に戸山公園で一人の仲間が亡くなった、という事実は、あらためて冬の路上の厳しさを思い知らされる出来事でした。越冬の後段においても、パトロール班との連携のもと、仲間のいのちを守っていく路上の防衛線を更に強くしていきたいと考えています。

昨年12月、新宿連絡会医療班は、ファイザー製薬の助成事業であるファイザープログラム「心と身体のヘルスケアに関する市民活動支援」の助成金（270万円）を授与することができました。今後、この助成金も使わせていただきながら、「疾病の予防」といった観点も取り入れて活動を発展させていく所存です。

* 越年期間中の救急対応

- ・救急隊要請 5人（うち4人入院）
- ・女性施設緊急入所 1人

* 1月5日、6日 新宿区福祉行動の記録

- ・入院 4人
- ・通院と法外宿泊 3人
- ・通院のみ 18人
- ・その他 2人（大田寮入寮、治療の必要なし）

山谷炊出し班越年報告

本田庄次

毎年のことながら年末年始の一週間、ひたすら山谷へと電車で移動し、約120キロもの白米を炊き上げてくる、これが山谷炊出し班の任務だ。午前11時の全体集合から一時間余りで山谷の城北福祉センター前に到着、それからわずか一時間半で16釜の飯を炊き上げる、これぞ共同作業のなせる業であろう。

まずは今年も難なく、無事に全作業日程を終了したことを報告したい。

その上で毎年感じることであるが、山谷炊出し班の特色は大きく言って二つある。

一つは、山谷に行きたいという仲間たちが殺到し、人が足りないということが一回も起きないことだ。山谷の現場では場所が狭いこともあり、10人も行けば身動きも取れぬ状態になってしまうことから、連日の山谷行きは多くても12～13人としてきた。それでも「俺も行きたい！」という仲間は連日膨れあがり「人数制限」をせねばならぬ毎日であった。

もう一つの点は、とにかく変わった仲間たち



が自然発生的に寄り集まり、越年を担う強力なスクラムを形成していくこと、その中心的なメンバーが山谷炊出し班を担っていくことである。

年末年始は世の中も社会も特別な時期だ。

この期間に新宿の中央公園で野宿せざるを得ないという「共通の強いられた状況」を背負わされた仲間たちは、「越年闘争を最後までやるんだ」という一点を目標に、自然発生的にポケットパークに集まってくる。「越冬を担う仲間がもし集まらなくて、炊き出しを維持するのもままならなかったら」という不安はなぜか毎年全くない。仲間たちの前に具体的な目標を提示し、それへの道筋を示して行動を呼び掛ければ、これに呼応し体を動かす仲間はたくさんいる。新宿がつかみ取ってきたこの確信は、今年も遺憾なく発揮されたのである。

それにしても、「本田さん。今日は寝癖が直らなくて格好わるいから、山谷行きはお休みします」と言った仲間の存在は、寄せ場一日雇労働者を機軸とした荒削りの運動の中には決して現れなかったであろう新たな現象であるとも言える。「変わった奴」は他にも多数いるが、彼らとはぜひ新宿中央公園でお目にかかっていただきたい。

5年目にして初の事態—新宿丸沈没

新宿中央公園に越年拠点を移して5回目とな



った今年の年越しで、最も厳しかったのはやはり「雨と雪」であったろう。とりわけ1月3日昼の「雪」、夜半から明け方にかけての「雨」は、新宿越年で初めての試練であった。ついに、炊き出しやパトロールを担う仲間たちが集団で寝泊まりしていた「大テント」が、ついに水没—沈没の憂き目をみってしまったのだ。

その晩、私は池袋へのパトロールを終え夜12時頃大テントの床についた。未明の2時頃ふと目を覚ますと、背中半分が濡れている。体の位置を替え、布団の乾いている部分を捜しながら必死で寝ようとしたが、ついに背中全面に水が滴り、布団の全てが水没してしまった。ふと枕もとを見ると、深さ10センチくらいの水が溜っている。もはやこれまでと観念し3時過ぎにはテントを脱出、公園で焚き火をくべ濡れた衣類を乾かすことにした。

「それにしても皆なはよく寝ているなあ。濡れたのは俺のところだけか」—そんなことを思いながら、夜が明けるのをひたすら待ち続けた。

そして朝も8時を回る頃になると、テントで寝ていた仲間も皆一様に起きだしてきた。「冷てえよ。だめだこりゃ」「ウワー。ピチャピチャだよ」そんな悲鳴と共に、仲間たちが即座に取った行動はまさに感動ものであった。30人くらいの仲間が、次から次からテントの中の布団や毛布を出し尽くし、公園内にある柵に干して回り、一方濡れた布団の代わりにダンボールを敷こうと、町中に散ってかき集めて回ったのである。

もしも一般の人がこんな状況に晒されたら

「もう耐えられない」と逃げ出してしまうであろう。だがここ以外に逃げ場がなく、だからここに根をはって仲間の命を守っていかうと集まった者たちにとって、立ち足る困難はあきらめるためにあるのではなく、乗り越え克服するためにあるのだと、つくづく思わざるをえない情景の一コマであった。「新宿丸沈没す。だが瞬時にして立て直し再び帆を上げた」

新宿の大テントで寝泊まりしていた仲間たちは、明るる4日の夜には「新宿丸」を修復し、前夜には何もなかったかのごとく一日の疲れを癒す床についた。

仲間たち、ご苦労さまでした。

そして今年一年また一緒に頑張ろう！



パトロール班報告

上釜 一郎

越年期のパトロール班は19時半コースを4班体制（東・西・北・中央公園）で期間中6日、25時からの深夜コースを1～2班体制で5日周りました。また神田川沿い、中野、高田馬場と広域にも気を配りそれぞれ単発でパトロールを行いました。中央公園を拠点に1月5日までの連日の炊き出しとイベント、ボランティアの医師らによる24時間体制の医療テント、休み明けの大田寮抽選（厳冬期対応、自立支援Cコース）などの情報提供と、具合の悪い方への市販薬の配布・医療テントへの誘導など路上からの情報の収集にとめました。

19時半コースでは、毎週日曜日のパトロールで顔を繋いでいるお馴染みの仲間から炊き出しや医療相談に行った話を聞いたり、中央公園のカラオケ大会でマイクを握って隠れた才能を発揮している仲間の姿から情報が伝達していることを実感しました。深夜コースでは「靖国通り・柳通り沿いの階段下」、「東・南・西口駅周り」、「地下広場・4号街路」をベースにシャッタ

ーが閉じてから現れる半・非定住層（新規の流入層）にホッカイロ（約100個／日）を配布しながらアプローチし、全5回（臨時パト除く）のうち3回は毎週日曜日の19時半～のパトロールで回っていないところの開拓を行いました。1月になってからも駅周辺や電話ボックスの中などで「田舎から仕事を探しにきた」「炊き出しなど知らない」という方が必ずおり、野宿で夜を過ごす術を知らない仲間には、雨風を凌げる地下広場への誘導を行いました。

例年通りこの期間は新しい仲間・ボランティアの多数の参加でパトロール班も大いに賑わうのですが、なかには仙台のほうから中央公園のテントに泊り込みで新宿連絡会の活動に参加したいという方までいらっしゃいました。新宿連絡会の戦争を知らない世代の私にとって「まだまだ捨てたものではありません新宿連絡会」と生意気にも思う反面、ホームレス（野宿労働者）問題が全国的に深刻化しているのだということを感じさせられました。今期の越年は上記のような積極的な新規の仲間にやや押され気味ムードのなか、前回の反省もいかされてパトロール班内での問題（隊列や迷子など）も特になく、むしろ25時からの深夜コースに最高11人も参加者があったことでコースや班への振り分けにこちら側が対応しきれない面がありました。

そんななか1月4日に戸山公園で仲間が1名亡くなりました。周囲の仲間によるとここ2,3日の間に新しく来た仲間、亡くなる前の晩、お酒



特集・新宿&池袋越年闘争報告

を飲んでいるところを目撃されています。死因は恐らく凍死。広域である戸山方面の新規の流入層を単発の高田馬場パトロールのみではフォローしきれないことが証明されたと思います。また実際にパトロールを行った仲間からは「18時（馬場のみ）からでは仲間は既に寝ていて話し込めない」という報告もあり、同じ越年期間中でありながらも中央公園・戸山公園・駅周辺・繁華街では仲間の生活様式に違いがありパトロールのコースのみでなく時間帯も検討する必要があることがわかりました。今後も路上からの情報収集と検討、その還元の反復作業は続きます。

最後にパトロールの後仲間の冷え切った身体に暖かい夜食を用意してくれた料理長と協力してくださった皆さまに深く感謝いたします。今年もがんばっていきましょう。



越年期新宿駅周辺パトロールと深夜パトロールで出会った仲間の数

	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
西口	91(8)	108(16)	/	116(5)	134(8)	/	109	124(2)
南口	3	5	/	5	2	/	2	3
東口	47(3)	56(10)	/	92(9)	65(7)	/	59(5)	71(8)
北口	63(5)	64(4)	/	63(5)	66(2)	/	73	63(1)
地下広場	145(6)	138(20)	120(2)	146(47)	181(16)	199(1)	179(6)	/
4号街路	64(2)	60	39(2)	79(6)	75	79	77	/
総計 (かぜ薬)	413(24)	431(50)	/(4)	501(72)	523(33)	/(1)	499(11)	/(11)

(注) 新宿中央公園の数は入っていません。

2002-2003 第4回 池袋越年活動報告

いけとも・遠田

■第4回池袋越年活動日程

12月23日	新宿&池袋越年越冬支援連帯集会
24日	池袋連絡会定例会議にて 越年活動最終打ち合わせ
25日	定例パトロール
26日	テント借り受け
27日	テント設営、資材搬入（寿より衣 類・缶詰めなど、新宿より毛布）
28日	テント管理体制、資材搬入（豊島 北教会より）、おにぎり配食
29日	テント管理管理、テント内整理
30日	越年活動突入、毛布・衣類配布
31日	年越しラーメン、紅白歌合戦観賞
1月1日	年始回り（山谷、新宿、渋谷）
2日	大田寮面会、新宿医療班受診 呼びかけ日
3日	撤収準備のため資材整理（炊き出 し用器具、テント内保管物資）
4日	毛布・衣類放出、撤収作業、打ち 上げ、テント体制延期（5日まで）
5日	テント解体、掃除
6日	テント返却、福祉行動
8日	定例パトロール
11日	定例炊き出し

■炊き出し

今回も昨年に引き続き、「飯炊き」からすべて池袋で行う。これまでの定例炊き出しから、基本的には釜数を7釜とする（30日のみ様子を見るために8釜）。人員的には、今年は新宿からの助っ人もなくすべて池袋のみにてまかなう。調理責任者として、YさんとKさんをお願いをする。

また、Mさんに調理専門スタッフとして働いてもらう。

初日は物資も一切なく、保有していたミックス野菜チップを利用して雑炊をつくる。今回の越年では総じて食材（とくに野菜類）のカンパが少なかった。予算をたてるときに、野菜類のカンパが少ないことを見越していたため、それほど影響はなかったと思う。

また通常の炊き出し以外に、「年越しラーメン」と「雑煮」を作成・配食する。年越しラーメンは30日夜に新宿からアントニオ猪木の生ラーメンが運び込まれたことによる。生麺で日もちしないこともあり、当初予定していた年越しそばを取り止めて年越しラーメンとすることに決定。

1日夕方には山谷よりもちが運び込まれる。前日の電話連絡ではもち3kgということだったため、炊き出しとした配食するには量が足りない判断、通常の炊き出しを用意していた。が、実際に運び込まれたのは15kgであり、急遽、翌2日に雑煮をつくることに決定する。

他に、カンパとして頂いたみかんやりんごち

ゆく年 くる年

こんばんは。池袋越冬実行委員会です。
今年はおおきな公園工事など、仲間には寂しい年だったろう。それ以外にも寝場所が減ったり、苦勞が多かったのではないかな。そんな年もあと残りわずか。越冬実では今年も例年通り、南池袋公園で越年体制を組んでいます。連日の炊き出し、パトロール。この冬をみんなの協力ですり切ろう！！

池袋越冬実行委員会

特集・新宿&池袋越年闘争報告

やしてたき火をしていたので、思ったより帰る人が少なかった。紅白が終わって「ゆく年くる年」で年が明けるまで、10人前後の人がたき火にあたりたり、テレビを見たりしながら残っていた。

年が明け、片づけをしている私に、おっちゃんたちは「久しぶりに紅白を見たよ。ありがとう」と言って帰っていった。あらためて、「大晦日」とか「新年」とかを大事にしたプログラムが必要だし、大切なことなんだと思った。

■新宿医療班受診呼びかけ

今回は新宿との日程調整が整わず、医療相談会を開催しなかった。その代わりに医療体制として、越年期間中、緊急の場合は新宿へ搬送することとした。また、呼びかけ日として1月2日に新宿へ医療相談をしに行く日を設けた。最終的に新宿への搬送・受診者はいなかった。

■お礼

越年活動を支えてくれた皆さん、ありがとうございました。

あけましておめでとう



新しい年があけた。今年はより一層のよい年になるよう祈っています。
越年も引き続き、24時間体制を維持、パトロールも連日行っているの、何かあった時はいつでも声をかけてほしい。

池袋越冬実行委員会

ップなどを同時に配る。

■夜回り

今回も3班（東口、西口、駅周辺）に別れて行なった。

当初予定では夜回りのピラは持たないことにしたが、夜回りする側・される側双方からピラの要請があり、急遽31日にピラを作成（3種類）。今年が都が実施する越年対策がなくなり、人数的にはかなり多くの人が池袋に残っていた。

スタッフの疲労も考え、今回は1月2日の夜回りを休止することにした。また、3日の夜回りは雨のなかでの実施となり、傘を購入するなどの対応をした。

■紅白歌合戦

大晦日に紅白歌合戦の鑑賞会をおこなった。実際は、午後3時半頃からテレビをつけていたので、「ナツメロ」番組などをみていた。例年だと、早い時間に人がいなくなるので、今年もそうなるかと思っていたが、今回は一斗缶でまきを燃

越年体制終了

明け4日の朝で今回の越年体制も終了です。仲間たちの協力のおかげで、今回も無事に終えることが出来た。寒い日はまだまだ続くが、この仲間の団結を力に残りの冬も乗り切っていこう！！

池袋越冬実行委員会

今年の予定

8日(水)	パトロール
11日(土)	炊き出し

活動報告

12/23新宿&池袋支援連
帯集会、元気よく開催

NPO新宿、今は水面下
で、蕾を一気に咲かそ
うと画策しております。

この冬、私たちが把握し
ているだけで区内4名の
路上死。今年の冬は厳し
い。越冬後段日常活動も
奮闘中

◇新宿&池袋越冬支援連帯 集会開催される◇

12月23日、豊島勤労福祉会館大会議室にて、02-03新宿&池袋越冬闘争支援連帯集会が80名の結集で開催されました。

集会の冒頭、新宿連絡会事務局・笠井より一年間の連絡会活動の総括、今後の運動上組織上の課題、そして越冬期の取り組みの重要性等が基調として提起され、全体の拍手で確認されました(基調全文は当会ホームページに掲載されています)。続いて、池袋連絡会、いけとも、自立生活サポートセンター舩(もやい)互助会、特定非営利活動法人新宿ホームレス支援機構(NPO新宿)から、それぞれの分野での報告があり、また、越冬体制の各班責任者からはスケジュール、注意点など詳しく説明を受けました。支援連帯の挨拶は教育社労組、山谷争議団から頂きました。

集会の第2部では、それぞれの班でのミーティングが車座で行われ、各自自己紹介や意見を言い合いながら、越冬の取り組みをどのように進めて



行くのかの綿密な計画が立てられました。

初めて豊島区の地で行われた支援連帯集会ですが、地元池袋の仲間も多く参加してくれ、新宿と池袋のつながりがより大きなものになりました。

◇NPO新宿、着々と活動開始◇

特定非営利活動法人新宿ホームレス支援機構は、この間の政府交渉のセッティング役を努めると同時に、会員確保等の組織固め、そして調査・研究、啓蒙・啓発分野と、就労支援分野における独自の活動を着々と進めています。

12月、季刊Shelter-lessの15号をNPO新宿名で発行(発売・現代企画室03-3293-9539、一般の書店で購入できます)し、現在、販売、営業活動を会員の仲間が担っています。また、2月に実施される新宿区内の実態調査にも参画する事が決定されています。

他方就労支援分野は、(仮称)路上生活者就労支援センターの設置に向けたチームを発足、調査、営業等を現在行っており、本年半ばまでの開設を目標としています。また、炊出しの場などを利用して就職時の保証人提供も既に先行的に実施しています。多少であります但求人情報なども寄せられるようになり、それなりの手ごたえを感じているところです。

法人認証は縦覧期間を過ぎ、現在審査過程に入っています。来月2月中には認証が下りる予定です。

新たな仲間の会員を確保しながら、焦らず、着実に仲間の就労自立につながる事業を展開しながら、社会に対する啓発、啓蒙活動を邁進し

ていくつもりです。

◇日常活動◇

越冬後段の取り組みは越年明けから早速スタート。今年の東京は例年に比べても寒さが厳しく(既に年明け3回も雪が舞うなど)、越年明けの寒い日に戸山公園で一人、新宿駅東口で一人亡くなっています。新宿の特徴ですが、新しく来た仲間にとりあえず出迎え、正確な情報を提供できるのか、仲間が仲間を支えていける関係をどれだけ構築できるのかが、今の課題としてあります。そのためパトロールを軸に強化しながら、炊出し、医療相談会、福祉行動、寮面会、入寮受付監視、特別清掃監視等の活動を個々バラバラにではなく、統一した視点と連携で行ってい



るところです。

「仲間の命は仲間の力で守る」。寒さが続く限り越冬は続きます。路上の仲間の必死の取り組みへの応援、御支援宜しくお願い致します。

路上トピックス①

ホームレス法による実態調査が2月始動も、東京都の消極姿勢はいかかなものか？

ホームレス自立支援法にもとづく全国実態調査がようやく各都道府県で実施される運びとなりました。東京都においては、昨年12月19日、各区市に対する説明会を実施しようやく概要を明らかにしました。それによると、「概数調査」は東京都福祉局が担当。毎年度実施している「路上生活者概数調査」の数を基本に、国管轄の調査結果を加えたものを国に報告。調査日は2月初旬、昼間、公園、河川、道路、駅舎などの管理者に依頼して行うとの事です。他方、「生活実態調査」は23区内調査対象目標を400人として、台東区75人、墨田区60人、新宿区55人などの割り当てを決め各区が調査員を選定し、統一した調査表により個別面接形式で実施し、その報告を都が回収し国に報告すると云うものです。「生活実態調査」は2月中旬に実施するとの事です。

東京都も含めた「概数調査」「生活実態調査」は、3月下旬に国が調査結果を集計し公表し、それに基づき4月から基本方針策定を開始し、6月に基本方針を策定するというタイムスケジュールになっています。

東京都における今回の調査では「生活実態調査」は良いとしても、「概数調査」を本格的にやらない、つまり、既存の調査方法における調査結果をそのまま上げると云う手法には疑問の声があがっています。連絡会が指摘して来た通り、昼間の概数調査では非定住層の路上生活者数が正しく反映されず、結果として少なめの概数が出て来てしまいます。例えば、新宿駅西口地下などでは、深夜の時間帯には200名近い人々が寝ていますが、昼間調査したとしてもこれらは数名程度にしかありません。これらの人々は昼間どこにいるかと言えば、冬期ですので公園で昼寝も出来ず、区役所や都庁、図書館やデパートの休息所などで暖を取って休いたり、街中を歩いていたりします。区役所へ相談に行っている仲間も多いですし、病院に通っている、もしくは日雇いや雑仕事をしている仲間もいます。新宿に限らず、池袋、渋谷、上野、東京駅など、ターミナル駅周辺で寝ている仲間は、この方法では正確にカウントできません。あえてこれだけの批判がある手法を国の基本方針の元ともなる「概数調査」で実施するのか？私たちにはどうてい理解できません。

たかが概数の問題と云えども、今後の自立支援計画などに大きな要素を占めるものであり、法の受益者たる仲間にとっては大きな問題です。少ない数の計画であれば、それだけ支援策は狭き門になるからです。今回の東京都の「概数調査」への消極的な姿勢は今後大きく引きずっていくことでしょう。

路上トピックス②

東京都の「ホームレス緊急援護事業費」は一体何に使われるのか？

本年度、東京都、23区が冬期臨時宿泊事業を廃止したところへ、国の補正予算による「ホームレス緊急援護事業」費が舞い込んで来た。まったく皮肉なものだが、与党三党によるホームレス問題ワーキングチームや全国の支援団体が要請した予算でもあるので、これを使わぬと云う話しにはとうていなるまい。

東京都は、1億円規模の事業を今のところ考えているようだ。が、もっとも注目されるのは、その使い道。この冬、路上生活者に「毛布、医薬品」などを提供する「緊急援護」という目的を持った予算であり、自立支援センターやら緊急一時保護センターには使えない。新宿区などで毎日配っている応急援護品（カンパン）は、既に国の補助費をもらっているためこれにもまた使えない。つまり、新しい事業として行うべき性格の事業費である。

東京都が（もしくは特別区が）この費用をどう使うのかは、都区が路上生活者の緊急性あるニーズをどのようなものとして捉えているのかを試すリトマス紙のようなものであり、今から楽しみにしているところである。1億を都の発表の6千で割ると、一人当たり約1万6千円分となる。それに見合ったものが提供されるのか否か、野宿者は大変注目をしている。ちなみに、連絡会は毎年毛布を1000枚無料で配っているが、連絡会の仕入れ単価で計算すると1億で20万枚も調達できる事となる。そして、毛布を配るにせよ、何にせよ、どうやって路上生活者全員に配るのか？いかに平等性を保つ事が出来るのか？楽しみな点はいくらでもある。

連絡会としては、事業費のほとんどが役人の人件費になってしまわないよう、厳しく監視をして行きたい。もちろん、要望もこれから出して行くつもりである。

路上トピックス③

新宿区の厳冬期対応無料宿泊事業が開始される。入寮日には多くの仲間が並びとにか好評！

新宿区がこの冬実施する事となった厳冬期対応無料宿泊事業が12月19日から開始されています。東京都23区の冬期臨時宿泊事業の廃止に伴い、冬期宿泊の需要が高い新宿区が実施することになった事業で、緊急一時保護センター・大田寮の定員増を利用した2-3週間の無料宿泊事業です。

新宿での冬期宿泊の需要の高さは、初回196名、2回目198名、3回目179名、4回目129名、5回目112名が抽選受け付けに並んだ事からも見受けられます。現在まで抽選に当たった仲間180名が交代で入寮を果たしました。（平均約4.5倍の当選率）。これまで3名が入寮中の検診で病気が発見され入院、また1名が生活保護に切り替わるなど、単なる宿泊だけでなく冬期の仲間の健康を守る実績もあがっています。とりわけ今年は厳しい寒さが続き、風邪をこじらせている仲間も多く「よかった、これで風邪が治せる」と、一時の宿泊でも自らの健康管理のために利用する仲間も増えています。新宿福祉では風邪の治療のために病院にはつなげる事はしていますが、慢性的な宿泊所不足の中、泊れる場所は無く熱のある仲間でも路上で薬を飲んで治さなければなりません。テントの仲間は暖かくして寝る事も可能ですが、非定住の仲間はそう云う訳にもいきませんし、慢性的な睡眠不足に苛まれ、治る風邪もこじらせている仲間が多いのが現状です。そうでなくとも厳しい冬にさらされている中で肉体的にも精神的にもかなりの打撃を受けやすい中、厳冬期だけでも無料宿泊場所があるのは心強い限りです。願わくば全体の枠をもっと広げ、一人一回、順番と云う事ではなく、必要があればいつでも泊れるようなものにしていけば、更に効果はあがると考えられます。自立支援はもちろん大事な施策上の課題ですが、他方においてシェルター施設の厳冬期における活用方法はより柔軟かつ大規模にしていくなどの工夫（発想力）がなければ自立支援という施策も「絵に書いた餅」にしかならないでしょう。仕事どころか、その前に身体や精神が壊れてしまいます。

その意味で、新宿区の厳冬期の積極的な対応策は先駆的であり、これを基準に今後の冬期の対応と云うものを考える必要があるでしょう。

新宿連絡会会計報告（2002年11月～12月期速報）
越年越冬後半の活動のためのカンパ継続を御願い致します！

収入)		支出)	
①炊出し部門寄付	¥25,000	①炊出し事業費	¥325,480
②活動部門寄付	¥12,050	②医療活動事業費	¥8,448
③越冬準備部門	¥697,170	③パトロール関連費	¥64,346
④通信部門寄付	¥58,750	④活動関連費	¥60,215
⑤緑フォーラムより義援金	¥2,000,000	⑤福祉面会関連費	¥29,105
⑥その他寄付	¥451,650	⑥自立支援事業費	¥26,182
⑦前期繰越金	¥55,336	⑦文化娯楽費	¥38,862
		⑧越冬関連費(毛布等)	¥801,424
		⑨教宣活動関連費	¥205,301
		⑩事務費	¥160,329
		⑪池袋関連事業費	¥37,858
		⑫雑費	¥5,880
		⑬次期繰越金	¥1,536,526
合計)	¥3,299,956	合計)	¥3,299,956

この間、越冬の取り組みへの暖かい御支援を全国の方々から頂きました。ありがとうございます。お陰さまで越年の取り組みは滞りなく終了致しました。けれども、まだまだ寒い冬が続いています。不況脱却の道筋が立たないご時世に心苦しい限りですが、引き続きの御支援どうか宜しくお願い致します。

(新宿連絡会事務局一同)

路上文芸総合雑誌
ろ じ ゅ く

露宿

22号好評発売中!
p38 B5版 500円



創刊号から続く名作「東京ふらい」
散歩」がついに今号で最終回!
が、まだまだ続くよ路上文化。次
号、アルコール問題と格闘し死期
迫る仲間からの驚愕のドキュメン
ト掲載開始!

購読申し込み方法

郵便振替用紙 (00160-6-190947ろじゅく編集室) に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい (発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」(隔月刊)

〒170-0014 東京都豊島区池袋 1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp

URL・http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

東京・路上 冬

ボランティア募集中!

新宿炊出し (準備・片付け)

毎週日曜 午後6時より7時半

ところ 新宿中央公園

池袋炊出し (準備・片付け)

第2、第4土曜 午後3時より5時

ところ 南池袋公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半

ところ 新宿中央公園

第2日曜 午前10時より正午

ところ 戸山公園

パトロール (夜回り)

新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～

中央公園 毎金曜 午後2時～

戸山公園 毎水曜 午後6時～

池袋駅周辺 毎水曜 午後9時～

*お問い合わせ先

090-3818-3450 (笠井) もしくは、

メールshinjuku@tokyohomeless.com

Shinjuku & Ikebukuro 連絡会NEWS/VOL.33

2003年1月29日発行 (隔月刊) 定価100円

編集・発行 新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議 (新宿連絡会) & 池袋野宿者連絡会

〒111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館 2F

電話・FAX 03-3876-7073 もしくは 090-3818-3450 (笠井)

カンパ金送付先・郵便振替口座00170-1-723682 「新宿連絡会」

メール・shinjuku@tokyohomeless.com <http://www.tokyohomeless.com>

編集協力・ろじゅく編集室 東京都豊島区池袋1-14-5-13 <http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>